

古民家の野外博物館

日本民家園だより

平成2年度第1号

《通号第20号》

発行 2・5・1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区枳形7-1-1

電話 (044)922-2180~1

印刷 (資) 永 申 社

奈良の町屋、旧井岡家住宅

- 旧井岡家住宅
- 神奈川県指定重要文化財
- 切妻造り，棧瓦葺き（一部本瓦葺き），正・側面下屋附
- 平面積 103.28㎡
- 旧所在地 奈良県奈良市
下高畑町745
- 昭和43年1月 井岡樞清氏より
川崎市に寄贈
- 昭和56年3月 移築復原工事
完成
- 昭和61年11月 県重要文化財に
指定される



旧井岡家住宅

◆ 線香の製造・販売をした家

この家は、旧奈良町の町屋地域の外側部分に属する、柳生へ向かう旧街道沿いに南面して建てられていたものです。家業は建築当初は油屋であったと伝えられ、「油屋与兵衛」を名乗っていましたが、途中で線香屋さんから養子もらった時に線香屋に改め、現在でも「線香屋」の屋号でよばれています。

古都奈良というと古い町屋が多く残っているように思われますが、江戸時代にたびたび大火に遭い、建築年代が17世紀に属すると考えられるものは4棟のみで、井岡家はそのうちのひとつに含まれます。年代を確定する資料はありませんが、井岡家の過去帳最古の年号は元禄9年（1696）であり、建物自体の調査の結果、17世紀から18世紀の境ごろの建築であろうと推定されています。

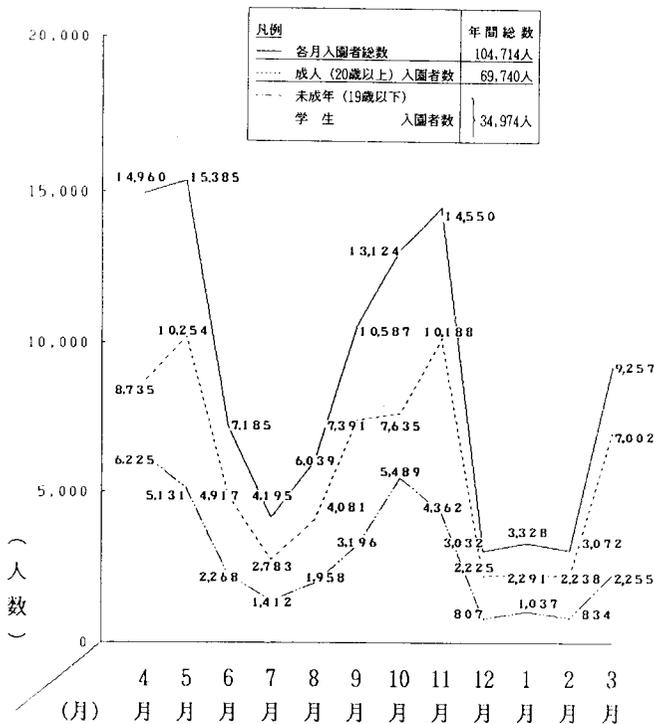
奈良町屋の特徴としては、市街地のため狭くなっている間口を二分割して一方を土間、一方を床とする平面をもち、床上部分は縦一列型が多いこと、奥行きが深く切妻平入りなので天井裏に「つし」とよばれる空間があること、表がまえが格子・あげみせ・蕨戸であることなどがあげられます。井岡家もこれらの特徴を備えています。この家で珍しいのは、間口を二分割した寸法が土間・床上部分とも同じであること、「つし」が狭く窓もつけられない古様さをもった外観となっていること、商品の展示場として使われる「あげみせ」が引違板戸の外について専用になっていることなどです。

◆ みどころ

- 本・棧瓦の混ぜ葺き
- 正面左の丸太格子（鹿格子）
- 「みせ」のある町屋の間取り など

平成元年度入園者統計

平成元年度月別入園状況 (総人員：成人及び未成年・学生別)



昨年度の入園者統計がまとまりましたのでお知らせいたします。昨年4月から本年3月までの総入園者数は104,714人で、内69,740人が成人、34,974人が未成年でした。成人は全体の約67%にあたり、この割合はそれまでの最高であった昨年度の約64%をさらに上回りました。これは、未成年入園者が昨年度に比較して約5,000人減少したことの影響です。未成年入園者は近年減少傾向にあり、この点は今後の検討課題です。

なお、昨年度の月別入園状況の内訳は左のグラフの通りです。

〈民俗歳時記〉

マンガ洗い

マンガ

馬鍬洗いとは、田植えが終わった祝いのことです。全国的にはサノボリ・サナブリとよばれていますが、川崎市域ではマンガアライ・マンガレイという方が一般的なようです。

田植えを終えたあと、一日仕事を休んで、田植えの準備から終了まで使われた農具(カマ・クワ・マンガなど)をきれいに洗って土間などに並べ、供えものをして田の神と農具に感謝を捧げて豊作を祈るとともに、田植えにたずさわった家族や手伝いの人たちにご馳走して労をねぎらうものです。

田植えは一度に多くの人手が必要なので、何軒かの家で協力して行っていました。(このような共同作業の結びつきを、ユイ・エイといいます。)川崎市の

稲田では、田植えがすむと、エイの組の人全員が一軒の家に集まり、手打ちそばやさしみ、天ぷらなど、ふだんの日には食べられないご馳走を作って、田植えが無事に終わったことを祝いました。田植えがすんでも他に仕事がたくさんあるので、雨の日を選んで行ったそうで、忙しい農作業の合い間の楽しみのひとつであったようです。

民家園では、マンガ洗いの展示を、旧北村家住宅内で7月中に行います。

マンガ

新緑のまぶしい季節になりました。当園では、今年も恒例の“民家園まつり”を5月中旬に開催いたします。いろいろな行事を予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非お越しください。

民家園



◆民具・郷土玩具手づくりコーナー <3, 5, 6, 13, 20日>

藁や竹を材料に簡単な民具やおもちゃを自分で作ってみませんか。

◆民具着用体験 <3, 5, 6, 13, 20, 27日>

ミノやフカグツ、ポッチ笠などの着心地を体験できます。

◆古民家のみどころ紹介 <6, 27日>

園内の主要民家内で、その家の特色や古民家に関する基礎知識を係員が解説します。

◆民俗資料の展示 <2~31日>

ワラジやオミキノクチなどの民具の作り方をパネルで展示します。

(民具関係の会場は旧作田家です。)

◆民俗芸能公演

民家園まつりのメイン・イベント、県内の民俗芸能の公演を行います。当日は会場付近に臨時出入口を設けます。公演観覧のみの方は無料です。

日時 13日、12時30分開演(雨天の場合は20日に順延)

会場 旧船越の舞台

- 演目
- 1) 祭り囃子 小杉神社囃子保存会 (川崎市内)
 - 2) 古民謡“大師めでたや” 大師古民謡保存会(市内)
 - 3) 土橋踊り, 瀬田唐橋踊り, 他 土橋万作踊保存会 (市内)
 - 4) 箱根の湯立獅子舞 (国指定選択無形民俗文化財)

宮城野獅子舞保存会 (箱根町)



のご案内

7月までの行事案内

◀年中行事展示▶

<5月中> 端午の節供 武者人形・鯉のぼり

<7月中> 七夕まつり 入園者の方に自由に短冊を書いていただきます。

マンガ洗い 田植えの終了を祝う

◆民具づくり教室 一竹細工一

<6/16・23・24・30(土・日)>

おしぼり置きや花器、籠など8種類の竹細工を作ります。はじめての方もどうぞ。

○定員 20名 ○教材費 5,600円(全種類分)

○申し込み 5/27(日)午前9時から電話で先着順

◆いろりへの集い① <7/29(日)>

民家のいろりを囲みながら、昔の生活(特に衣食住)について考えたり体験したりするシリーズの第1回目です。今回は民家についての話の予定ですが、以降11月まで月1回いろいろな内容を盛り込んだ講座を継続します。続けて参加して下さる方をお待ちしています。

○定員 15名 ○申し込み 7/22(日)午前9時から電話で先着順

<これからの予定>

8/26…足中ぞうり作り 9/16…食事の話

10/28…和風作り 11/18…おもちつき

園の動き

◆ 民具づくり教室—草木染め—開催< 2 / 25 >

昨年度2月開催の民具づくり教室は、例年の紙漉きと異なり、草木染めに挑戦していただきました。野外での水仕事には少し寒い気温でした。8名の参加者の皆さん本当にごころうさまでした。

◆ 体験学習—草ダンゴ作り—開催< 3 / 11 >

通りがかった一般の見学者や、ダンゴ作りの取材に来ていたケーブル・テレビのスタッフまで飛び入りで、キネをふるって汗をかいてもらいました。

◆ 平成元年度第3回民家園協議会開催< 3 / 28 >

◆ 人事異動< 4 / 1 > 開園以来長年にわたって勤務してきた新井清職員が3月31日をもって退職し、後任として青少年の家より山田素弘職員が着任しました。

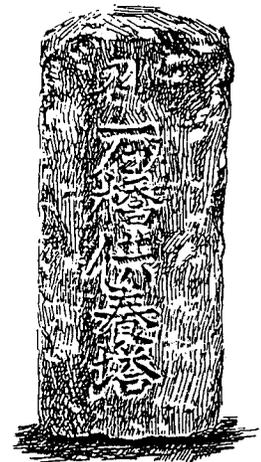


ダンゴ作りは、お父さんの出番も多いです

園内の石造物案内(6) — 石橋・石橋供養塔 —

わが国では、大変古くから石橋が造られていたようですが、古いものほどその構造は単純なものでした。それが江戸時代以降になると、長崎市にある眼鏡橋のような複雑な構造の橋も造られるようになり、技術的にかなり進歩したりっばな石橋が各地に現れるようになりました。しかし、人々が日常の生活の中で利用する大多数の石橋は、依然として規模も小さい素朴な形のものでした。民家園内にも2ヶ所に川崎市多摩区内から移設した石橋が展示してありますが、いずれの石橋も非常に素朴な形のものです。

江戸時代に造られた石橋には、しばしば付随して石橋供養塔が建てられました。これは、洪水などの折、人の生死にかかわる橋には靈魂が宿ると考えられたためでした。



旧清宮家付近の石橋供養塔

編集後記

平成2年度第1号の「日本民家園だより」をお届けいたします。春の訪れとともに新緑が鮮やかに感じられる季節となりました。ここ生田緑地も散策にハイキングに遠足にと最適のシーズンを迎えております。特に5月いっぱい恒例の“民家園まつり”も開催されます。本年も郷土色豊かな公演を予定しています。ぜひ皆様のご来園をお待ちしております。(K)

園内に移設してある2つの石橋供養塔も石橋の新設や修復に際して橋の安全を祈願して建てられたものと思われませんが、いずれのものも造立の年と願主の銘が残っています。



菅の船頭小屋付近に展示してある石橋